

自由な気風で自分らしい生活を

「愛の家グループホーム大阪松」

(大阪府)

ホーム長・藤本典彦

223

会田幸一郎さん(仮名)は自宅で妻と暮らしていましたが、食生活が偏り、血圧が不安定な状態でした。また会田さんは言葉が出にくいこともあり、人と会ったり、外に出ることを好まず、妻の負担は増えていきました。妻だけで会田さんの対応をすることが難しくなり、当グループホームへ入居が決まりました。

会田さんは、納得して入居したわけではなかったため、事業所での生活に拒否感が強い状態でした。一方、妻は本人の気持ちを理解しながら入居させたことに後ろめたさがあったため、暗い表情で面会に訪れては、遠くから眺める程度で帰っていました。私は会田さんが快適に事業所で暮らし、その姿を見ることで妻にも安心してもらいたいと考えました。

まずは会田さんが職員を信頼できるように、事業所でも好きなことが行えるようにしたいと考えました。職員は会田さんの話をしっかり聞き、ゆっくり分かりやすく話すようにしました。また、会田さんは自宅で飲酒の習慣があったため、ビールを飲む機会をつくり、和やかに会話できる環境を整えました。会田さん

は職員や他の利用者とも会話をするようになり、事業所での生活に慣れていきました。食事もしっかりと取れるようになると、血圧も安定しました。会田さんの表情の変化とともに妻の表情も明るくなっていきました。妻は今では面会時に、部屋の中で二人で和やかに会話できるようになりました。

環境変化が起こる時、入居する本人だけでなく家族にも影響があります。利用者が事業所で自分らしく穏やかに生活することとは、家族の安心になります。施設で生活することが、お互いの生活の改善につながることもあるのです。

「愛の家グループホーム大阪松」では、「自由な気風で自分らしく最後まで生活できる」をモットーとしています。その方の自分らしさを追求し、利用者と家族を支援していきます。



「愛の家グループホーム大阪松」で作った迎春祝い御前とビールを楽しむ会田幸一郎さんと職員